



トレースの例

この付録では、問題の例を紹介し、トレース トラブルシューティングの手順をいくつか説明します。次のリストは、これらの例を示しています。

- [問題の例 \(P.B-1\)](#)
- [正常な設定の確認 \(P.B-2\)](#)
- [トレースの設定 \(P.B-3\)](#)
- [トレースの収集 \(P.B-4\)](#)
- [結果の検討 \(P.B-5\)](#)
- [参考情報 \(P.B-5\)](#)

問題の例

IP Phone (電話番号 2000) が 1 台あり、別の IP Phone (電話番号 3000) に全コール転送するように設定されています。ネットワークには、クラスタ内に 5 台の Cisco CallManager サーバがあります。

正常な設定の確認

次の手順を実行して、問題をトラブルシューティングします。

ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool と Cisco CallManager Administration を使用して、DN 2000 の IP Phone が設定および登録されている Cisco CallManager サーバを検索します。

この例では、このサーバを「ノード A」とします。

ステップ 2 IP Phone に移動し、Cisco CallManager ノード A がアクティブであることを確認します (Settings ボタンを押し、Network Configuration までスクロールします)。

ステップ 3 Cisco CallManager Administration を使用して、DN 3000 の IP Phone (DN 2000 からのコールがここに自動転送される) が設定されている Cisco CallManager サーバを検索します。

ステップ 4 Real-Time Monitoring Tool を使用して、DN 3000 の IP Phone が登録されている Cisco CallManager を検索します。

この例では、このサーバを「ノード B」とします。

ステップ 5 Cisco CallManager Administration を使用して、ノード A 設定上の IP Phone が、正しく設定されている DN 情報とコーリング サーチ スペースを持つ全コール転送を示していることを確認します。

この例では、設定は正しく行われています。

ステップ 6 クラスタ内にある任意の電話機から DN 3000 へコールします。

この例では、コールは完了します。コールは完了するので、トレースを有効にし、電話が正しくコールを自動転送しない理由を判別します。

トレースの設定

次の手順を実行してトレースを設定し、DN 2000 から DN 3000 への全コール転送が正しく動作しない理由を判別します。

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Serviceability ウィンドウから、Trace Configuration を選択します。
 - ステップ 2** ノード A に対して Cisco CallManager サービスを選択します。
 - ステップ 3** Apply to All Nodes チェックボックスをオンにして、ノード A およびノード B をトレースします。
 - ステップ 4** デバイスに基づくトレースを設定します。
 - ステップ 5** DN 2000 および DN 3000 の IP Phone を選択します。
 - ステップ 6** 詳細なデバッグ トレース レベルで非デバイス トレースを有効にします。
 - ステップ 7** Trace Configuration 情報を保存します。
 - ステップ 8** クラスタ内にある任意の電話機から、DN 2000 にコールし、そのコールが DN 3000 に転送されることを確認します。



ヒント

時刻を記録します。これは後で必要になります。

トレースの収集

次の手順を実行して、トレースを設定し、IP Phone 間のコールについての情報を収集します。

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Serviceability ウィンドウから、Trace Collection を選択します。
- ステップ 2** トレースを設定して、SDI 情報を収集し、P.B-3 の「トレースの設定」のステップ 8 で記録した時刻を使用します。
- ステップ 3** **Submit Form** ボタンをクリックします。
- ステップ 4** Trace Collection の結果を表示します。



(注) 結果を表示するには、テキスト形式または XML 形式のいずれかを使用します。

- ステップ 5** トレースを設定して、SDL 情報を収集し、P.B-3 の「トレースの設定」のステップ 8 で記録した時刻を使用します。
- ステップ 6** 状態遷移情報の結果を表示します。



(注) 結果を表示するには、テキスト形式または XML 形式のいずれかを使用します。

結果の検討

この例では、SDI トレースおよび SDL トレース収集の結果を検討します。テキスト ファイルまたは XML ファイルを使用できます。Trace Analysis ツールを使用して、XML ファイルの結果を表示します。SDL 情報を検討することによって、スキルのあるエンジニアは、2 台の電話の間で発生している問題の種類を判別できます。

参考情報

関連項目

- [第 8 章「トレース」](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の第 5 章「トレースの設定」
- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の第 6 章「トレース収集の設定」
- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の第 7 章「トレース分析の設定」

